

ひとこと

『縁』



広島交響楽団 音楽総監督
下野 竜也

私は、鹿児島市で生まれ大学を卒業するまで同地で育ちました。両親は元より親族縁者にも、クラシック音楽をやっている者も愛好者も全くおらず、クラシック音楽に縁の無い家でした。テレビ等でオーケストラなどが映っても興味を全く示さずにいた私が、小学校で目にした「キラキラ輝く楽器」に目を奪われてから、今、こうしてオーケストラの指揮者をしているなんて夢にも思っていませんでした。

弟の担任の先生がトランペットを所有されており、授業に持参され、我々に吹かせて下さいました。音は出ませんでした。とても興奮したのを覚えています。まずは見た目に惚れたトランペット。その後、音にも魅了され器楽部に入部。同級生に誘われ地元のジュニアオーケストラに入り、どっぷりと音楽に魅了され音楽を中心とした生活が始まります。そこからは、ずっと大好きな音楽の事ばかり。その中で出会った多くの人々に教えられ影響を受けながら過ごして来ました。

大学4年の秋、初めて吹奏楽コンクールの全国大会に出場しました。広島での開催でした。その26年後、そのホールを本拠地とする広島交響楽団の指揮者になるとは夢にも思っていませんでした。そして、その時の審査員のお一人が、のちにお世話になる現広島ウィンドオーケストラ理事長の小林泰一郎先生でした。

その後上京し、東京でのあまりの情報の多さ、レベルの違いに驚きながらも指揮者への夢を諦めずに勉強を続けて、そろそろ学校も終わりという頃に、秋山和慶先生の特別レッスンを受講出来ることとなりました。飛び上がって喜んだのを私の友人が今でも笑いながら話します。そして、現れた大指揮者の秋山先生の前で、夢中で指揮をしました。シューマンの交響曲第3番「ライン」でした。「良いね。」と言って下さった先生の後を受け継ぎ、21年後に広島交響楽団の指揮者なるとは、もちろん、夢にも思っていませんでした。

こう書くとまるで自慢気にサクセスストーリーを披瀝している様ですが、それは違います。私は、本当に良い「縁」に出会う事が出来、その時の、厳しい言葉も優しい言葉も糧となって、今の「縁」を頂いているのだと思います。

「縁」により、この素晴らしい広島で新しい生活が始まります。素晴らしいオーケストラである広島交響楽団と共に、広島の皆さんと古今東西作曲家たちが残した、またこれから生まれるであろう素晴らしい音楽作品との「縁」を取り持ちたいと考えています。

平和都市 HIROSHIMA のオーケストラである広島交響楽団が、平和の元で、世界中の人々とのより良い「縁」を取り持つ様な活動をして行きたいと思っています。